

今月のみらい新聞はフランス、パリ18区に住む「おやつクラブ」の子供達が担当することになりました。





そもそも  
「おやつクラブ」  
とは

外国に住んでいれば子供達は自然とバイリンガルになると考えがちですが、フランスで生まれ育った子供達は、フランス語が母国語となってしまう、例え親の話す言葉が理解できたとしてもその言語を満足に話すことは出来ない状況に陥ることが多々あります。パリで子育てをする私達日本人の大きな関心の一つに、自分の子供がいかに日本語を話すようになってくれるかということがあります。そこで自然的且つ必然的に発足したのが「おやつクラブ」です。「おやつクラブ」は、学校が休みの水曜日に、近くに住む日本人の子供達を集めて一緒に遊ばせるという、ただそれだけの会ですが、普段一日の大半をフランスの学校で過ごし、日本語に触れる機会がほとんどない子供達に、日本語を話す機会を与え、何故日本語を学ぶ必要があるのかということを考える場となっています。

パリ郊外のキッズスペース  
『Fun Academy』



パリ19区『104』



パリ18区の公園



パリ19区『ヴァレット』で  
ピクニック



お天気のいい日は公園に。



フリーマーケットに参加。  
子供たちもお手伝い。



## 2月の活動 「シャンドルール」

さて、2月といえばシャンドルールです。シャンドルールとはクリスマス(冬至)のちょうど40日後である2月2日にあたり、日本語では「ろうそく祝日聖母お潔めの日」と呼ばれるキリスト教徒の祝日です。ろうそく祝日と呼ばれる由来は、聖母マリア様がイエスを神殿に奉獻する「お潔め」のユダヤ宗教行事の際、皆がろうそくを持って参列しお祝いしたからだと言われており、フランス家庭ではその日は家にある全てのろうそくに火を灯しクレープを食べて祝います。この祝日はローマの多神教において春の訪れと共に農作業にもどる日でもあり、小麦粉で作るクレープを食べることで、その年の豊作を願う儀式でもありました。また円盤形は太陽崇拝の宗教と関わりが深いと考えられます。キリストと光、その黄金色は太陽をも意味し、その丸い形は幸運の再来を願うものでもあり、その謂われから黄金色で円盤状のクレープを食べる習慣となったのです。そこで今週の「おやつクラブ」の活動は、子供達とクレープを作ることになりました。



シェフはもちろん子供たち。  
上手に出来るかな～？



甘～いシロップや  
クリームを塗って。



美味しそうに焼きあげました！  
みんなでいただきま～す♪





# ブレイブ家のクレープ

ブレイブ家秘伝(!?)のクレープのレシピと作文を披露してくれたのは、ブレイブ家長女のうみちゃん。



うみ(7さい)



## パパのクレープのレシピ

- 小むぎこ ..... 125g
- たまご ..... 一つ
- ぎゅうにゅう ..... 250cc
- しお ..... 一つまみ

- ① 小むぎこのまん中にくぼみをつくり、たまごをわりいれる。
- ② ぎゅうにゅうをすこしずつくわえ、のばす。
- ③ 中火のフライパンにバターをしき、やく。



トミ



うみ

まみ。すると、パパがようやくおきてきます。わたしは、パパといっしょにぎいりょうをまぜます。バターをフライパンにかし、クレープきじをひろげて、やきます。パパのすごいところは、クレープをポーンとたかくなげてひっくりかえすところです。わたしは、いつもハムとチーズのクレープとメープルシロップのあまいクレープをたべます。パパのクレープがせかい一おいしいとおもいます。

「パパのクレープ」  
—ねん ブレイブ うみ  
まいしゅう日よう日のあさは、あたしのパパがクレープをつくってくれます。わたしは目がさめるとすぐパパをおこして、「パパ、クレープつくって！」とさげびます。でもつかれてるパパは、なかなかおきません。だから、わたしがぎいりょうをよういします。バター、小むぎこ、ぎゅうにゅう、しお一つ



フランスと柔道について



みきょう(6さい)

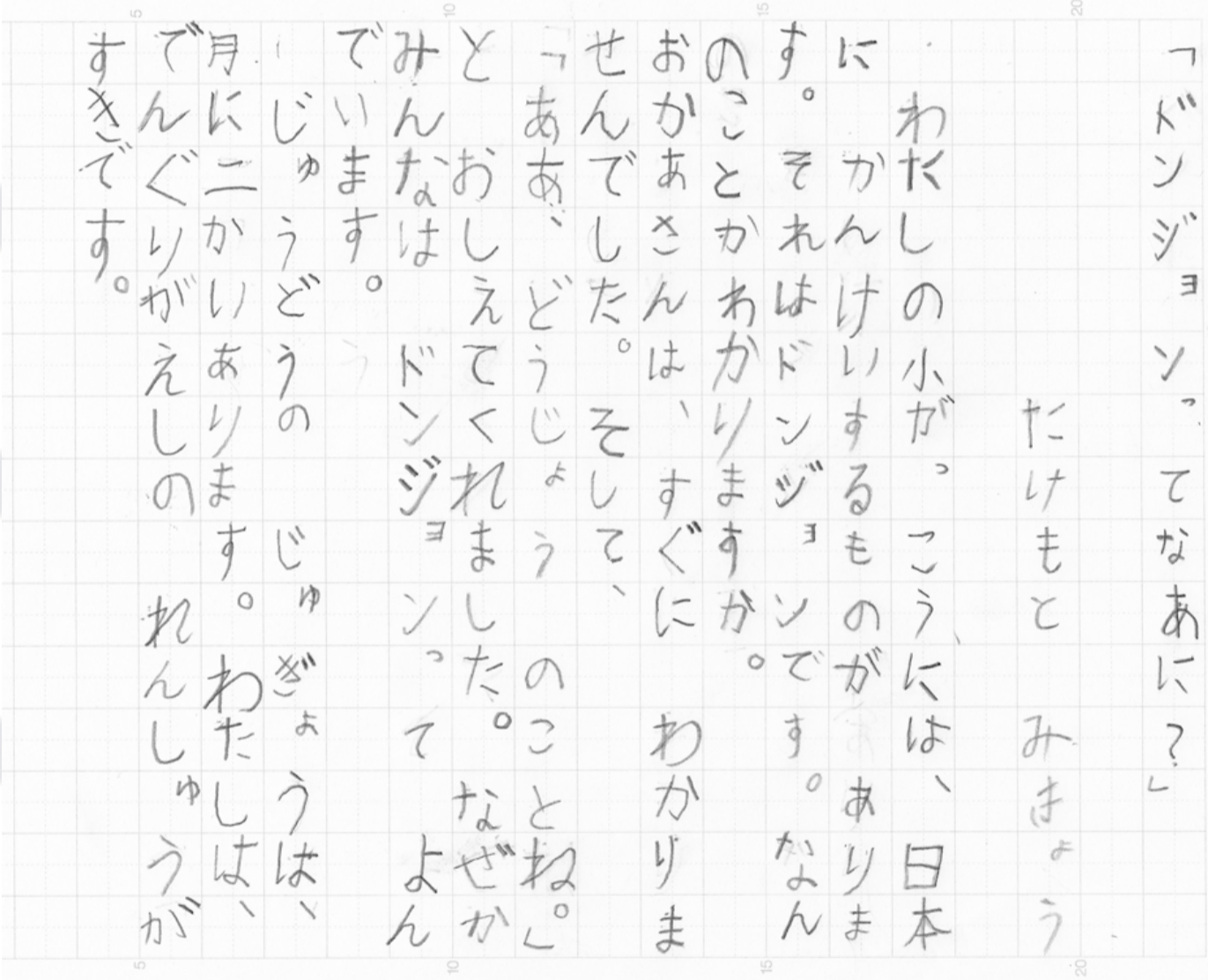


校庭にある「ドンジョン」。二階が道場で、一階は給食室。

柔道人口は日本の3倍以上といわれるほど、フランスで人気のある柔道。必須科目として柔道を取り入れている公立学校(5歳~10歳)もあり、習い事として柔道を選ぶ子供たちも多く見受けられます。

パリ市内には、道場が校内にある公立高校は二校ほどしかないそうです。娘たちが通う小学校は、校内に道場があるという点で珍しいようです。

ちなみに、フランス語でドンジョンdonjonは「中世の城塞の主塔や天守閣」を意味します。建物の雰囲気ちょっと主塔に似ているかな?!



時間を節約するために上衣のみを着用



国家指導資格を持つノエル先生

受身の練習



ペアになって練習





さや(6さい)

# 国際農業 見本市



「農業あつてのフランス」を思い起こさせるこのイベントの歴史は古く、  
第一回開催年は1870年。

**毎**年3月初旬にパリで行われる農業見本市。  
9日間、家畜や農産物のコンクール、地方や  
海外領土県、世界の食品が展示販売されます。  
総計数4500以上を数える、様々な品種の家畜が  
フランス各地からはるばるパリに大集合。  
動物たちはさすがにちょっと「お疲れ」の様子も  
見受けられましたが、農畜家にとっては晴れの  
舞台となります。

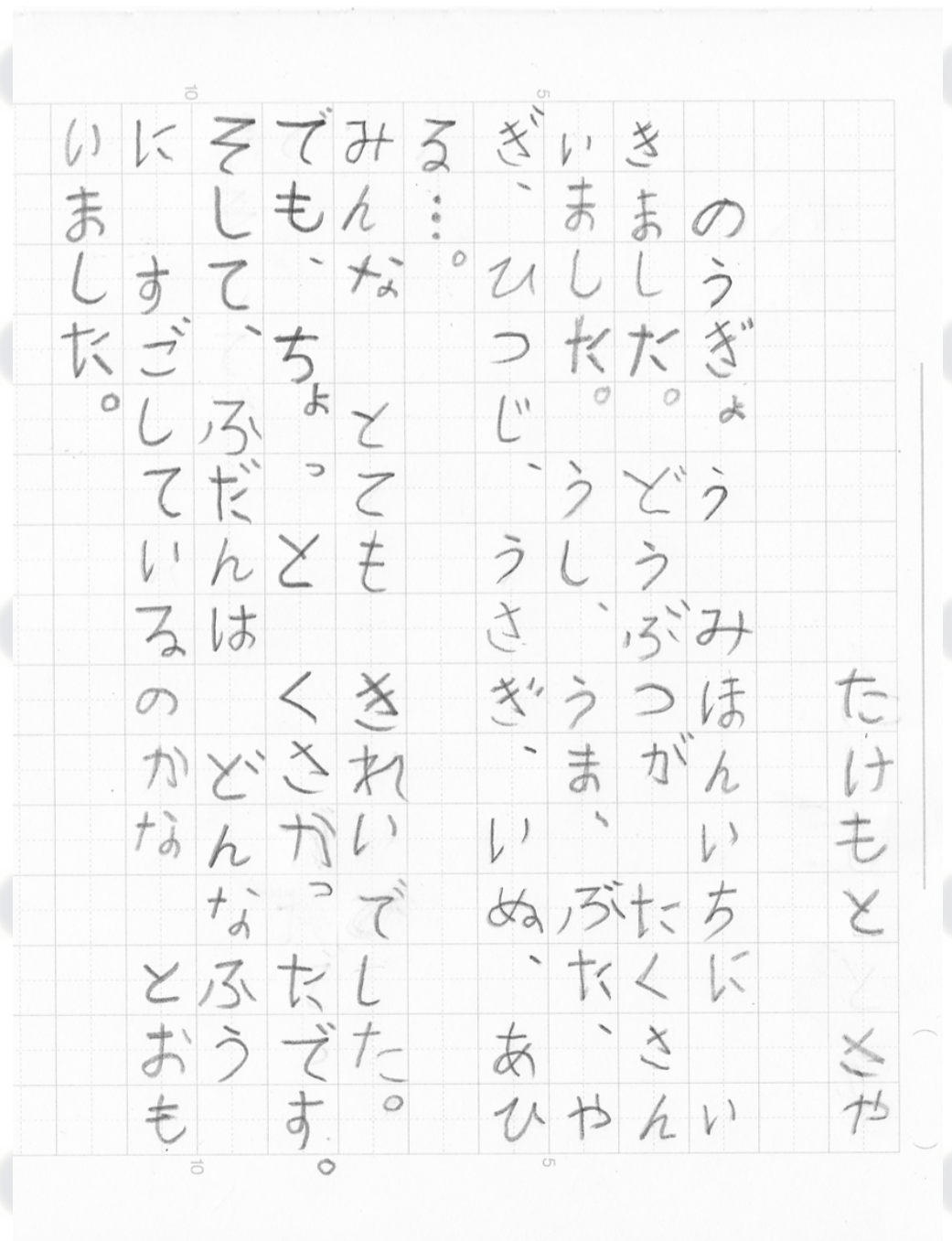


今年のマスコットガールに選ばれた  
ヴァレンティーヌちゃん。7歳、ガスコンヌ種。  
見本市の広告に起用されています。



きれいに毛並みをとかしつけてもらって、  
コンクール出場の準備。

プロだけでなく、子供連れの一般客も多数。





子供たちの  
作品



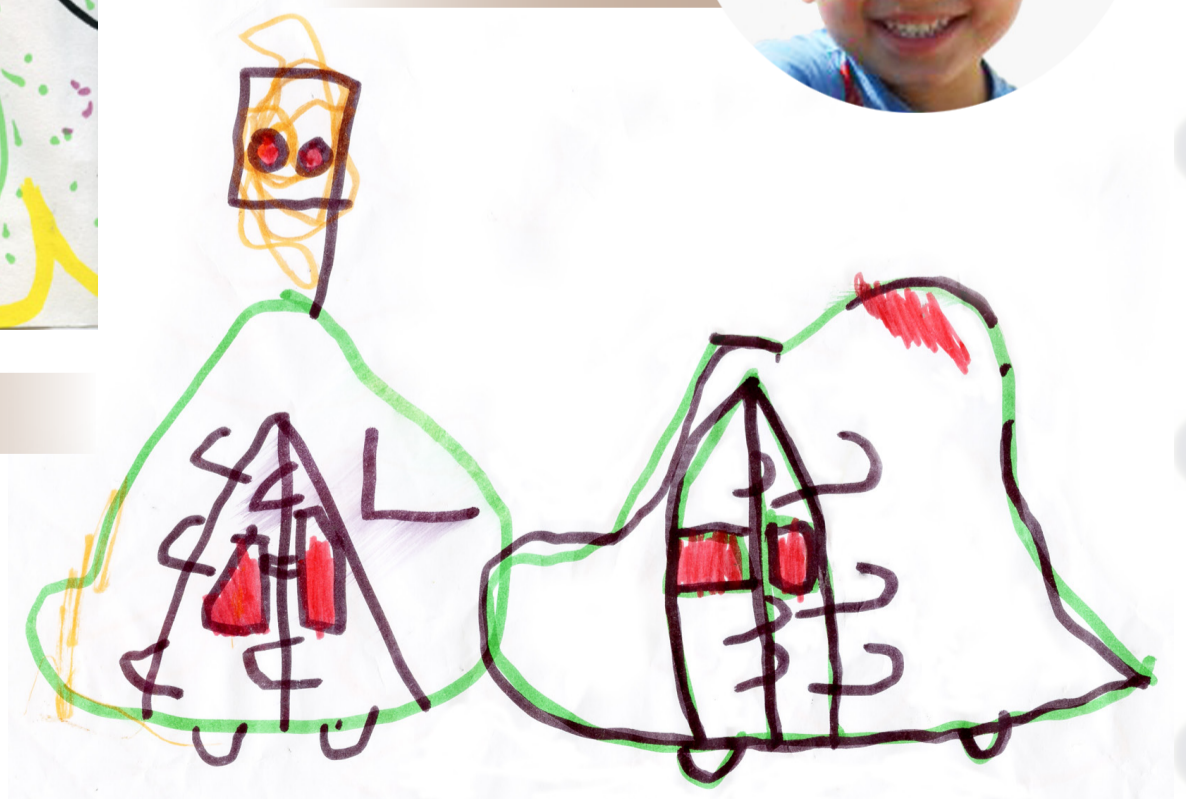
うみ(7さい)



とみ(4さい)



あきら(4さい)



りょうま(4さい)





みな(4さい)



たくみ(2さい)



ゆうみ(3さい)







さき(2さい)



るか(1さい)

## 編集後記

子供達と一緒に子供達の目線で物を作る。とても貴重で有意義な時間を共有することができて、「おやつクラブ」のメンバー一同嬉しく思っております。この場をお借りいたしまして、今回この壁新聞『みらい』を制作する機会を与えてくださった関係者の皆様に、心よりお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

世界中の子供達の『みらい』が明るく、希望に満ち溢れたものでありますように・・・!!!



タイトル『みらい』を制作中の子供達



釜石市の方が心をこめて作った「まけないぞう」がフランスにもお嫁入り?!



「おやつクラブ」専属カメラマン、ももさん! 今回も素敵な写真を提供してくれました。

制作：パリ18区「おやつクラブ」  
小林 順子、武本 智沙、水津 明日香、桑嶋 華、  
米原 里砂、白井 もも、中原 愛

編集：土本 綾子